大学における学生自治の現代的意義

序章――研究の背景と目的

第１章　否定的なものとしての学生運動

（１）戦後初期学生運動の展開

　①　戦後初の学生運動

　②　括弧付きの「民主化」へ

　③　「民主的」教育の戦前回帰

（２）政治性・暴力性との結びつき

（３）保守合同・自由民主党の55年体制下

　　①　1960年の安保闘争

　②　1962年の大学管理法反対運動

　③　1965年からのマスプロ教育反対の私学紛争

　④　1968からの学生の大学行政参加及び学園民主化徹底を要求する運動

（４）学生運動の終焉

（５）学生運動の本質

①　「学生運動とは何だったのか」――二つの側面から

②　＜大学にかんする要求＞という側面――当時の学生の主張

第２章　大学の自治との狭間で

（１）大学の自治とは

　①　通説的見解

　②　特殊ドイツ的な「学問の自由」

　③　日本における学問の自由

　④　問題の所在

（２）大学の自治の内部関係

（３）大学内部における学生自治

第３章　学生が大学の自治の主体となるということ

（１）教育を受ける権利からのアプローチ

（２）大学の自治の新たな展開――全構成員自治

第４章　原点に戻る――自治とは何か

（１）「知りたい」「表現したい」という本質

（２）自治へのこだわり

終章　むすびにかえて

参考文献一覧